

資料 3

交付対象事業に係る重要業績評価指標（KPI）実績について

※3市村合計値（令和3年4月1日現在見込み値）

評価指標		事業開始前	2016年度増加 分（1年目）	2017年度増加 分（2年目）	2018年度増加 分（3年目）	2019年度増加 分（4年目）	2020年度増加 分（5年目）	KPI増加分 の累計
林業就業者数 （人）	目標	—	6	9	9	9	10	119
	実績	76	13	10	4	16	16	135
林業参入事業体数 （社）	目標	—	2	1	1	2	3	10
	実績	1	2	1	1	1	1	7
素材生産量 （m ³ ）	目標	—	2,220	2,160	2,160	2,160	2,080	16,380
	実績	5,600	3,800	1,684	1,929	3,189	5,166	21,368

【指標別 取組自治体評価】

林業就業者数	森林組合をはじめ、新たに設立された農林福連携事業体（筑北村）や法人組織（朝日村）を中心に、毎年、一定程度の「雇用の創出」が実現されたことで、目標を上回る成果が得られた。今後も引き続き、林業就業者の安定的確保に向けて、雇用の受け皿となる新規「林業事業体」の育成支援のみならず、既存事業体の経営基盤強化や規模拡大に向けた新たなインセンティブづくり等にも取り組んでいく。
林業参入事業体数	5年間の取組を通して、社会福祉協議会を母体とした農林福連携事業体（NPO法人）「わっこ谷の山福農林舎」が設立されたり、「しおじり森林塾」の受講生を中心に市民活動団体が組織されたりするなど、着実に成果を収めつつあるが、目標を下回る結果となった。雇用の受け皿たり得る新たな「事業体」の育成に向けては、林業推進組織が継続して取組を進めているものの、改めて当組織が担うべき役割や取り組むべき事業等の精査を行う必要がある。事業参入に関する課題等の再整理を行うとともに、継続した「しごと（森林整備施業地）」の確保・創出に向けた更なる公的関与のあり方等についても検討を進めていく。なお、朝日村では木工作家等が連絡協議会を結成し、森林資源活用を啓発する活動を始めており、このような団体の育成・支援も引き続き検討していく。
素材生産量	役場庁舎の木造化や、信州Fパワープロジェクトに係る木質バイオマス発電所の商用運転開始など旺盛な木材需要を背景に、松くい虫被害対策事業等の促進も相まって、目標値を上回る成果が得られた。また、筑北村においては、村内温泉施設にアカマツ枯損木を燃料とした木質バイオマスボイラーを導入し、材の供給を山福農林舎が請け負うなど、地域資源・エネルギーの域内循環体制を新たに構築することができた。今後も引き続き、森林所有者への更なる啓発を図るとともに、森林経営管理制度の積極活用も視野に、事業体の参入支援や経営支援と併せて、戦略的な森林整備（保全）の推進と、需要に即した木材生産・流通体制の更なる整備・強化を進めていく。